

平成三十一年度

小論文

(60分)

教育学部 児童幼児教育学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、一枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

教育学部 児童幼児教育学科

次の文章と図1の調査結果を参考にしながら以下の問いに答えなさい。

いまの日本の教育現場を見てみますと、残念なことに「失敗は成功のもと」「失敗は成功の母」という考え方が、ほとんど取り入れられていないことに気づきます。それどころか、重視されているのは、決められた設問への解を最短で出す方法、「こうすればうまくいく」「失敗しない」ことを学ぶ方法ばかりです。

これは受験勉強にかぎりません。実社会でも通用する知識・教養を教える最高学府であるはずの大学での学習もまた同じです。失敗から学ぶ体験実習のように、自分の力で考え、失敗経験を通じて新たな道を模索する、創造力を培う演習が行われる機会は、悲しいかなほとんどありません。これが、「日本人の欠点」として諸外国から指摘され、また、自らも自覚している「創造力の欠如」にそのまま結びついているのではないのでしょうか。

たしかに以前は、ほかの人の成功事例をマネすることが、成功への近道だった時代がありました。そうした時代には、決められた設問に正確な解を素早く出す学習法が有効だったのは事実です。

しかし、ほかの人の成功事例をマネすることが、必ずしも自分の成功を約束するものではなくなったのがいまの時代です。昨日までの成功は、今日の成功を意味しません。そのような時代に大切なのは、やはり創造力です。そして創造力とは新しいものをつくりだす力を意味している以上、失敗を避けて培えるものではありません。

創造力を身につける上でまず第一に必要なのは、決められた課題に解を出すことではなく、自分で課題を設定する能力です。あたえられた課題の答えのみを最短の道のみで出していく、いまの日本人が慣れ親しんでいる学習法では、少なくともいまの時代に求められている真の創造力を身につけることはできません。

それでは、創造的な仕事をする場合、できれば身につけていたい知識とはなんでしょうか？

それを知るためにも、自分が新しい企画を考えたときの様子を想像してみてください。

あなたはまず、「こうすればうまくいく」という成功話を見聞きたいと思うかもしれません。たしかに受験勉強などで、ある決められた仕事をこなすためには、「こうすればうまくいく」話はいへん有効です。しかしあなたはじきに、「こうすればうまくいく」話だけでは不十分だということに気づくでしょう。なぜなら「うまくいく」話をもとにつくった企画は「どこかで見聞きした企画」にすぎないからです。

ではそこで、本当に欲しくなる話は何でしょうか。それがじつは「こうすればまずくなる」という失敗話なのです。

「こうすればうまくいく」といういわば陽の世界の知識伝達によって新たにつくりだせるものは、結局はマネでしかありません。ところが、「こうやるとまずくなる」という陰の世界の知識伝達によって、まずくなる必然性を知って企画することは、人と同じ失敗をする時間と手間を省き、前の人よりも一ランク上の創造の次元から企画をスタートさせることができます。

(中略)

大事なことは、ひとつには学ぶ人間が自分自身で実際に「痛い目」にあうこと、もうひとつは自分で体験しないまでも、人が「痛い目」にあった体験を正しい知識とともに伝えることです。後に詳しく触れますが、「痛い話」というのは、「人が成功した話」よりずっとよく聞き手の頭にも入るものなのです。

このように、陰の世界の知識、すなわち失敗経験を伝えることは、教育上大いに意義のあることですが、残念なことに失敗そのものには、「回り道」「不必要なもの」「人から忌み嫌われるもの」「隠すべきもの」などといっ

た負のイメージが常につきまといっています。そのせいか、いまの日本には、失敗体験が情報として積極的に伝達されることがほとんどありません。

本来は成功を生み出す「もと」であり「母」であるはずのものが、まったく生かされていないのは、非常にもったいないことです。

(畑村洋太郎『失敗学のすすめ』『失敗は成功の母』、「陰の世界の情報伝達」二二―一六頁 講談社 一部改変)

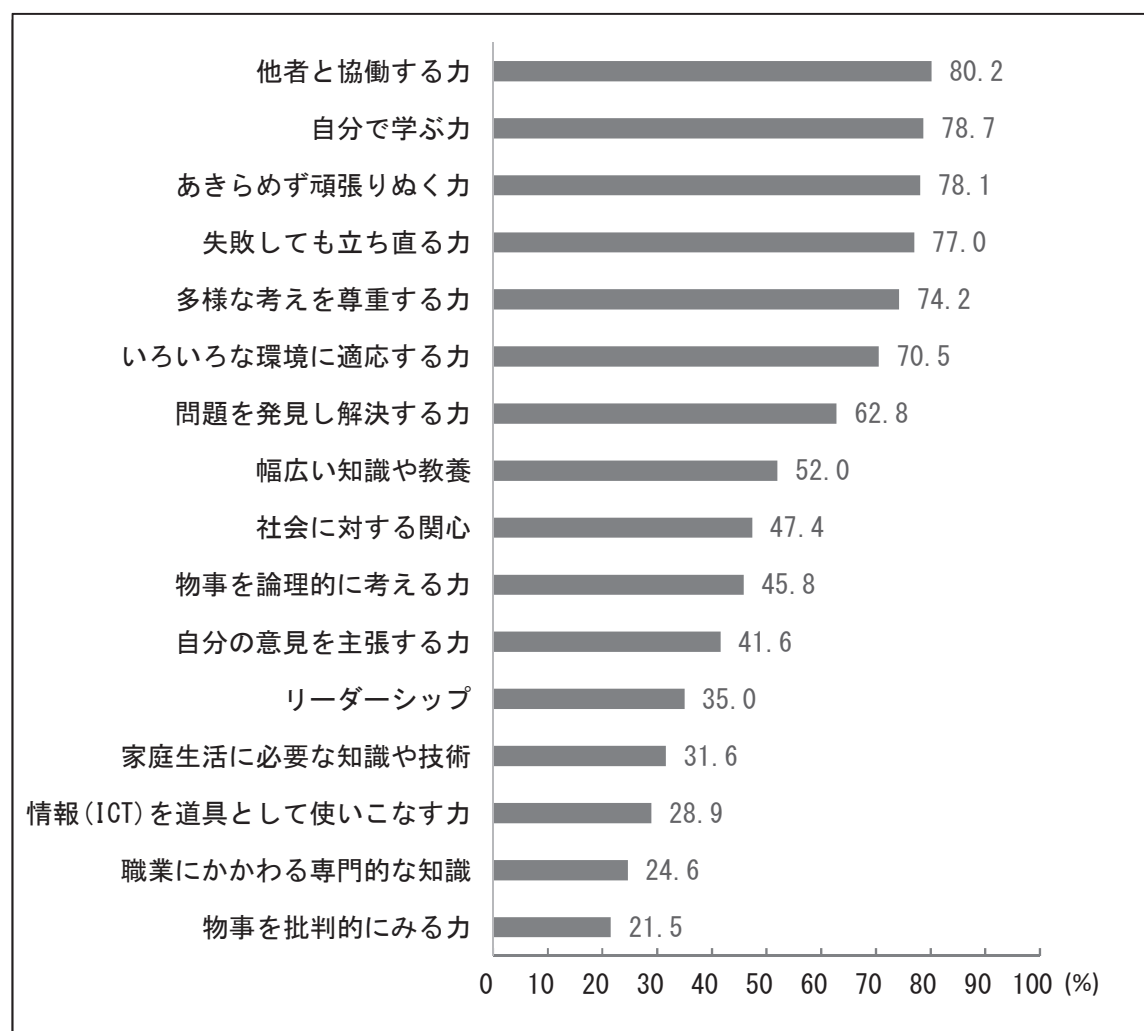


図1. 学校教育の中で育てる必要がある力

(注) 「あなたは、学校教育の中で、次のことを育てる必要があると思いますか。」の問いに対し、「とても必要」の%である。

資料： 教員養成ルネサンス・HATOプロジェクトの「教員の仕事と意識に関する調査」より作成。

調査対象者： 全国の公立小学校の教員。

調査方法： 質問紙調査。学校経由で1枚につき教員6名分の調査票を配布、有効回収数、1,482枚。

調査時期： 平成27年8月中旬～9月中旬。

問一 図1より、「失敗しても立ち直る力」を公立小学校の教員はどのように考えているのか、言えることを八〇字以内で答えなさい。

問二 文章を要約し、図1の調査結果を参考にしながらあなたの考えを四〇〇字以内で述べなさい。